

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)
第 53 回理事会 議事録

1. 日 時 2023 年 1 月 20 日 (金) 開会 9 時 30 分
閉会 10 時 30 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 会議室

※JANPIA 事務所内 会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保したうえで実施 (ZOOM を利用)

3. 出席者
理事長 二宮 雅也 [議長]
理 事 岡田 太造 茶野 順子 鵜尾 雅隆
監 事 土岐 敦司 柳澤 義一
審査会議委員長 深尾 昌峰 高原 康次 (第 1 号議案のみ出席)

事務局 鈴木 均 (シニア・プロジェクト・コーディネーター)
大川 昌晴 (事務局長 兼 総務部長)

4. 議 案
第 1 号議案 2022 年度通常枠 第 2 回公募 資金分配団体選定の件

5. 報 告
(1) 業務執行理事の職務の分担執行状況の報告
(2) 業務運営の状況全般について

6. 提出資料
資料第 1 2022 年度通常枠 第 2 回公募 資金分配団体選定の件
資料第 2 2022 年度通常枠 第 2 回公募 資金分配団体審査結果一覧
資料第 3 業務執行理事の職務の分担執行状況の報告

7. 議事概要
9 時 30 分開会、定款第 42 条により二宮理事長が議長となり、理事の現在数 5 名のうち 4 名が出席しており、本理事会は有効に成立していることを確認し、開会を宣した。
なお、議事録署名人は、定款第 46 条第 2 項により、二宮理事長、土岐監事、柳澤監事となることを確認した。

(1) 議案審議

第1号議案 2022年度通常枠 第2回公募 資金分配団体選定の件

岡田専務理事より、資料第1及び2に基づき、2022年度通常枠 第2回公募 資金分配団体選定については、選定基準、優先配慮事項に基づき、申請書類一式による手元審査及び申請団体とのヒアリングを踏まえた審査を経て、本理事会に推薦する内容等が整理されたため採択につきご決議いただきたいこと、今回採択には至らなかった団体に対し丁寧なフォローアップを行うこと等の説明があった。

続いて、深尾委員長（草の根活動支援事業、災害支援事業）、高原委員長（イノベーション企画支援事業、ソーシャルビジネス形成支援事業）より、それぞれの審査会議での主な議論や理事会に推薦する各事業の推薦理由、推薦にあたり条件を付した事業に関する留意点、採択を見合わせた事業に関する理由等の説明があった。

また、深尾委員長より、今回の申請では地域の中でコレクティブインパクトを誘発しながら多様な資源を巻き込んで課題解決にあたることを目指す事業が多かったこと、資金分配団体の空白地域からも推薦対象となった事業があり底上げ感が非常に強くなってきていること、レベルの高いプログラムが多く、従前の推薦基準を用いて議論した結果、予算枠よりも多い事業数を推薦するに至ったこと、また、高原委員長より、時代の大きな流れに沿う形で、テクノロジーやイノベーションを活用しながら社会の変化に取り残されがちな社会的弱者に向けた事業が推薦に至ったこと等の説明があった。

これに対する質疑応答は以下の通り

- (鵜尾理事) この制度を活かしてより発展成長し、様々なステークホルダーを巻き込みながら活躍できる組織を増やすために、その力をどう高めていけるかが今後の方向性を検討する中でも重要な点であると感じた。なお、所属する組織で間接的に関係のある申請団体が含まれていることから、その部分に関しては議決を辞退させていただく。
- (土岐監事) 今回、第2回目の採択に活用できる予算枠よりも多くの事業を推薦いただいているが、これは休眠預金活用事業が成熟し発展してきている証であり良い傾向だと思っている。
- (柳澤監事) 申請事業の質的な面でのレベルが上がってきている点は良い傾向だと感じている。一つ一つを見るとすべてが必要だと感じてしまい、この中で採択を決めていくことは大変であるが、色々な経験を積み重ねることでJANPIAならではのノウハウや知見が溜まっていくのではないかと。
- (大川事務局長) 本日ご欠席の清水理事からは、審査の結果、推薦数が予算の枠を超えている点については、旺盛なニーズ・需要があることを踏まえて次年度の予算等に反映してほしいこと、結果として枠に収まらなかった採択には至らない事業で今回理事会へ推薦があった事業が再度申請をされた場合にも、改めて申請内容について丁寧に確認いただくなど、公正・公平な運営が必要であり、これに留意した運営をお願いしたいとのご意見があった旨をお伝えするとのコメントがあった、

以上の質疑応答の後、審査委員の深尾氏と高原氏、および利益相反に関する申告があった鶴尾理事は決議の場から一度退席、その後、審査会議より推薦された事業の内、事業の有効性や審査に加わった各審査委員からの各申請事業に対する推薦の状況等に鑑み、採択すべき優先度を決めた上で、草の根活動支援事業2事業、災害支援事業1事業、イノベーション企画支援事業1事業を採択することを決議した。

8. 報告事項

(1) 業務執行理事の職務の分担執行状況の報告

大川事務局長より、資料第3に基づき、定款第19条により、業務執行理事の職務の分担執行状況について、二宮理事長においては、法令及び定款で定めるところにより、理事会及び評議員会の招集・出席・運営、5年後見直しに向けた内閣府、休眠預金等活用審議会及び休眠預金活用推進議員連盟との意見調整等への諸対応についての指示等の業務全般を執行したこと、岡田専務理事においては、理事長の示した方針を踏まえ、理事会及び評議員会への出席・必要事項の説明、5年後見直しに向けた内閣府、休眠預金等活用審議会及び休眠預金活用推進議員連盟との意見調整等の諸対応等の業務全般について業務執行理事として理事長を補佐し、業務を執行したことの説明があった。

(2) 業務運営の状況全般について

大川事務局長から、休眠預金活用事業の適切な運営について外部からの指摘を受けており、これを踏まえて、特に不動産、利益相反、規程類の公開等については現状把握を進めており、今後のより良い事業運営に繋げていくことを検討しているところであるとの報告があった。

以上をもって、第53回理事会の議事がすべて終了したので、議長は議事にその協力を感じ、10時30分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過およびその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2023年1月27日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人（理事長） 二 宮 雅 也 ㊟

議事録署名人（監事） 土 岐 敦 司 ㊟

議事録署名人（監事） 柳 澤 義 一 ㊟

以 上